



台風対策



令和6年8月20日(火)
京都府南丹農業改良普及センター

台風が来てから屋外で作業するのは危険です。慌てることがないように、事前にしっかり対策しておきましょう。

1 水稻



(1) 通過前

- ①強風による倒伏や葉の乾燥などを防ぐため、深水管理に努めるとともに、稲が水浸しないよう、あらかじめ排水口を調節しておく。
- ②既に刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。

(2) 通過後

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②穂いもちの発生状況に注意し、適切に防除を行う。
- ③品質低下の防止のため、成熟期に達し、倒伏した稲はできるだけ早く刈り取る。特に、キヌヒカリ等穂発芽しやすい品種を優先して刈り取る。

2 豆類



(1) 通過前

- ①豆類は湿害に弱いため必ず排水路、排水口等の点検を行い、ほ場内に滞水させないようにする。
- ②黒大豆は、支柱・ビニールひも等による倒伏防止対策を行う。

(2) 通過後

- ①黒大豆・小豆では、倒伏して茎や莢が地面についていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤の散布を行う。
- ②浸冠水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病虫害防除を行う。特に、小豆については茎疫病の防除のため殺菌剤の散布を行う。

南丹農業改良普及センターでは、本年度排水対策についての情報発信に重点を置いて取り組んでいます。ホームページでは、排水対策のモデル事例を写真入りで紹介したり、パソコンやスマホの表計算ソフト Excel で使用できる「排水診断システム（大雨対策を含む）」を配付しています。ぜひアクセスしてください。

→<https://www.pref.kyoto.jp/n-no-nantan-nokai/haisuitaisaku.html#23kurodaizusougoumenu>

南丹普及センター

検索

又は



次ページに続く

3 野菜・花き類

(1) 通過前

①施設栽培

[ハウス内への風の吹き込みを防止する!]

- ・ハウスバンドをしっかり締め直す。
- ・パッカーやスプリングを使ってビニール固定を補強し、隙間をしっかりふさぐ。

[ハウスの強度を知る!]

- ・所有するハウスが耐えられる風速の目安を確認する。
- ・ハウスの耐風強度を超える暴風が予想される場合は、骨材を守り、被害を軽減するため、風が強くなる前に、ビニールの引き落とし、巻き上げ（アーチパイプの露出）を行う。

※詳しくは『園芸ハウス台風対策マニュアル』をご参照ください。

リンク先 <http://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/engeihousetaisaku.html>

(お持ちでない方は普及センター(0771-62-0665)に連絡頂ければお渡しします。)

②露地栽培

- ・支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。
- ・直播きでまだ生育初期のものは、被覆資材等で茎葉を押さえる。その際、被覆資材は風にあおられないようにしっかり固定する。
- ・ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。

(2) 通過後

- ・滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ・液肥（500～1,000倍）を施用し、草勢の早期回復を図る。
- ・雨による傷から病原菌が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し発生初期に防除を行う。
- ・収穫可能なものは速やかに収穫し、また、播種直後で発芽不良の場合はただちに播き直しを行う。

4 果樹

(1) 通過前

①収穫できる果実は、できるだけ収穫しておく。

②果樹棚やハウス（雨よけ含む）は、断線や被覆が破れないように、補強する。

(2) 通過後

①落下した果実は、園外に持ち出して処理する。

②ブドウではべと病、ナシでは黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるので、殺菌剤を散布する。

③冠水した場合は、速やかにほ場の排水に努める。

④主枝等が折れた場合は鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全に折れた場合は枝を固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。